

私のイタリア紀行(三完)

長谷川 修

(承前) 国内旅行後半はポローニヤとヴェネツィアを訪ねる。

ポローニヤ

自由都市ポローニヤでは欧州最古の大学が創立され、ダンテ、ガリレオ、コペルニクス等が勉学に励んだ。大学跡地に残る解剖学大階段教室を見物したが、九百年を超える歴史の重みを感じる。

街の守護聖人を祀るサン・ペトロニオ聖堂は大教会の構想で建設を始めたが、「ヴァティカンより大きい物は建てるな」との教皇の横槍で工事が中断し、中途半端でいびつな構造をとる。ただ、内部の彫刻類は素晴らしく、大型の日時計は正確かつ精巧に作られていた。

また、娘の好みでモランディ美術館に行った。ポローニヤ生まれのモランディは抑えた色調で卓上の日常品を描き、須賀敦子の本の表紙にも使われている。

ヴェネツィア

ヴェネツィアはアドリア海北部の潟ラグーナに築かれた「海の都」である。

まずは街の概要をつかもうと、水上バスヴァポレットの二四時間乗り放題券を求め、大運河カナルグランデを航行する船から両岸を眺め、またヴェネツィア本島を一周し海から概観する。

本島では、須賀のエッセイで筆者の心に刻まれた、欧州最古のユダヤ人ゲットー跡と不治者施設院(梅毒治療院)のあったザツテレ海岸を訪ねた。また、旧国営造船所アルセナーレ正門では、輝けるヴェネツィア海軍の残光を感じた。

周辺の島では、瀟洒な教会のあるジューデツカ島、ガラス細工のムラーノ島と毎夏の映画祭会場となるリド島に上がった。

本島中心街は観光客による混雑と狭い道が入り組んでいることから、効率よく回るためにサン・マルコ広場からサンタ・ルチア駅まではガイドを雇った。リアルト橋、魚市場、マルコ・ポーロ生誕地跡等を巡り、道筋いくつかの教会に案内される。中でもサンタ・マリア・フラリーリ教会のティツィアーノ作「聖母被昇天」とサン・ロッコ大同信組合のティントレットの作品群は見事だった。

ナポリを含む五つの街は、いずれも長い歴史を背負いかつ個性的だ。住民、食べ物、建造物、景色等全てが、それぞれの色彩で輝いていた。